

# 飲水思源

町長 松岡市郎

## 「写真の町」宣言と文化庁長官表彰

3月29日東京の文化庁で玉井日出夫文化庁長官から「文化芸術創造都市部門」表彰をちょうだいした。大変光栄なことである。一般的な表彰は、市町村自らが功績調書を作成し、どこかの団体の推薦印を押印して提出、それを表彰団体の選考委員が選考、決定する場合が多い。しかし、今回のものは違う。電話での事前通知に対して「どなたの推薦ですか」と聞いたところ「これは文化庁が調査し決定したものと」のことであった。

聞き慣れない表彰なので、さっそくインターネットで調べてみると、平成19年から始まり、毎年4つの自治体が表彰されている。19年度は横浜市、金沢市、近江八幡市、沖縄市、20年は札幌市、東京都豊島区、篠山市、秋市で、過去2年間はずべて市等を表彰してきている。今年の表彰から「写真の町」東川町と群馬県中之条町の2町が選ばれた。受賞の理由は何だろう。文化芸術創造といっても気になるのだが…。

受賞事由を確認すると、1985（昭和60）年に写真の町条例を制定、国際写真フェスや写真甲子園を展開するなどして写真文化を創造し、かつ地

域の住民が積極的に参加している。加えて、その様子がマスコミでも大きく取り上げられ、高い評価を受けている、というのが主たる事由であった。

振り返って見ると、商店街木彫看板の普及、商店街の花壇、それぞれの自宅の美しい花壇、冬には東川氷土会の水彫刻活動、イルミネーションでの美化向上など、地域景観づくりにさまざまな分野で積極的に取り組んでいる。デザインや文化芸術も取り入れている。例えば、君の椅子、中学校の机と椅子、幼児センターのミニユメントや遊具、家具、傘寿記念、誕生記念家族写真、公園のミニユメント、婚姻届、出生届…などがある。人々の知恵と技を生かし、「写真の町」に調和した町づくりに参加してくれている。

これからも、真に受賞にふさわしい町づくりを進めていかなければならない。受賞式で「過疎から過疎へ、そして疎に価値を付けるのは文化芸術である。過疎から過疎・過疎への町づくりを目指している」と大きなことを披露してきた。東川小学校等の建設も計画している。文化芸術を生かした町づくりをさらに進めたいものである。

## 文化交流館 新刊図書・ビデオ 案内

貸し出し期間は、図書は1人5冊まで14日間、ビデオは1人2本まで4日間です。返却期間を守りましょう(夜間返却窓口もご利用ください)。



**ウォレスとグルミット ベーカリー街の悪夢**  
(アニメ、DVD)  
ウォルト・ディズニースタジオ

パン屋「トップ・パン」を始めたウォレスと犬のグルミット。でも働いているのはグルミットばかりでウォレスは女優に恋をして仕事に熱が入らない。おまけに「パン屋さん殺人事件」の犯人にウォレスが狙われ、グルミットはあの手この手で助けようとしていますが、能天気なウォレスはそのことに全く気付いておらず…。(30分)



**子どものためのノートのコツ**  
(児童書) 著/大門久美子 刊/汐文社

学校の授業や宿題で必ず使うノート。ノートがわかりやすければ、成績も上がりやすくなります。日付や見出しの書き方や、ていねいさと速さの使い分けなど、見やすいノートをとるための書き方の基本を、マンガと実例を通して解説します。授業や自主勉強の際に役立つアイデアも収録。



**教室の亡霊**  
(一般書)  
著/内田康夫 刊/中央公論新社

深夜の中学校の教室で、かつて教鞭を執っていた男が毒殺された。黒板の前に横たわる被害者のポケットには、なぜか新人女性教師の写真が入っていた。机に向かわない生徒、自己中心的な保護者、自信を失った教師…。浅見家の「落ちこぼれ」光彦が、教育界の闇に直面する。